

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 7 月 31 日現在

機関番号：23503
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2013～2016
課題番号：25370291
研究課題名(和文) 書物受容の歴史から見る近世英国書物文化の研究

研究課題名(英文) A Study of Early Modern English Book History

研究代表者

高野 美千代 (Takano, Michiyo)

山梨県立大学・国際政策学部・准教授

研究者番号：10289811

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、書物史、特に書物受容の歴史に注目しながら近世英文学、17世紀英国書物にアプローチすることを試みた。日本国内での先駆的な研究となることを念頭に海外の研究者の協力を得ながら4年間にわたる研究を展開した。

2016年10月に行った研究成果公開事業「17世紀の書物と読書」は成功裏に終了し、国際的な研究交流が実現された。この事業には、研究者のみならず学生や一般の書物愛好家が訪れて展示物(おもに近世の英国、日本の書籍・出版物)について意見交換を行うことができ、広く社会に成果を公開し、社会への還元が実現された。

研究成果の概要(英文)：In the course of this research project, I mainly concentrated on analyzing the way books were written, published, and read in seventeenth-century England.

The international research meeting in October 2016, titled as "Books and Reading in the Seventeenth Century," was most successful. This event was open to the public, and many books were displayed to hold and look at. Students and book-lovers, as well as researchers, shared a precious opportunity to appreciate early modern books, and they also attended the study sessions with the specialists, including a professor from UK, and exchanged opinions about the book culture.

研究分野：英文学、書物史

キーワード：書物史 17世紀英文学

1. 研究開始当初の背景

本研究は英文学の個々の作家・作品を中心的な研究対象とするものではなく、おもに書物史の観点から近世英文学作品・書籍にアプローチするものである。英文学における書物史研究は、書籍がいかにして産出され、市場に出て人々の手に渡っていったのか、それらの背景およびプロセス全体までも研究対象とする。17世紀英国の書物史に関して言えば、時代の歴史的(政治的・宗教的・思想的)背景を核とし、具体的には出版取引や統制上の変化、流通システムや生産過程の変化、著者・書籍商・読者との関係、書物の挿絵・前書き・装丁等々といったパラテキストの部分など、書物に関わる多様な要素を含んでいる。海外では盛んに研究が行われつつあるが、日本国内では本格的な研究はまだ十分だとは言えない。

私は17世紀イギリス文学を研究してきたが、その際、文学をいわゆる「純文学」に限定せず、むしろ「文書」として広く捉え、宗教や歴史を含む幅広いジャンルの書籍を研究対象としてきた。科学研究費補助金による萌芽研究(2004~2005年度)、基盤研究(2006~2008年度、2009年度~2011年度)の過程において、イギリスを訪問し、日本では殆ど注目されていない多くの歴史家、好古学者、宗教家の作品の原本を手にとり、調査してきた。そうする中で、書物と社会・書物と読者の関係をより正確に理解するためには書物史における諸要素(実際に同時代の読者が目にした通りの書物の判、装丁、タイポグラフィ、挿絵等)に関する知見が必要不可欠であることを確信した。

2. 研究の目的

本研究は、書物史(Book History)の観点から17世紀を中心とする近世英国の書物と社会の関係、書物と人間の関わり的一端を解明することを目的とする。近世英国においていかに書物が形となり、どのようにして読者の手に渡り、受容されたのか。蔵書家、読み手は書物をどのように収集・鑑賞し、それにより何を得たのか。著者・書籍商・読者という三者の関係はいかなるものであったのか。このような具体的問いに対する答えを導き出していく。書物史における諸要素からアプローチして行く、近世英国の書物と社会そして書物と人間の関係を追及する個別の考察を、最終的にはひとつの系統的な研究として提示することが本研究の最終的な目的である。

3. 研究の方法

本研究では、17世紀を中心とする近世英国の書物と社会、書物と人間の関係解明における課題に取り組むこととした。国内で研究の遂行が困難である資料収集の部分に補うために、英国において現地調査を行う。海外共同研究者からは専門的見地からの助言を受

け、この研究課題の方向性が国際的に妥当であり、価値を認められるものであるかどうかを常に確認する。初年度はおもに資料収集と分析を進めることに主眼を置きつつも、論考の発表を試みる。2年目以降は国内外での学会における口頭発表、及び学術誌への論文投稿をより積極的に行うことを意図した。最終年度には海外から研究者を招聘して国際研究集会を開催し、広くその成果を公表し、日本における英文学研究の新たな可能性を提示する。このような研究方法によって課題の遂行を計画した。

具体的な研究方法を挙げると、たとえばブックリストの分析がある。書籍商には各々の得意領域があり、決まった分野の、一定の著者群の作品を扱っている場合が多く見受けられる。書籍商が発行する広告である書籍巻末ブックリストにも、この事実が反映されている。過去に書籍商リチャード・チズウェル(Richard Chiswell)の動向を分析してきたので、同時代のロンドン主要書籍商によるブックリストを入手、分析、比較研究する。そして書籍商と著者の関係、さらにそこから垣間見ることが出来る購読者層について考察を深める。それと同時に、各書物がどのようにして同時代の読者の手に渡り、受容されたのかという問題の一端を解明するため、17世紀に生まれた出版形式である予約出版についての調査を続行する。具体的には17世紀の印刷物をまとめた*Term Catalogues*に掲載された予約者募集の広告等によって予約出版によって世に出た書物を割り出し、既に判明している分と合わせて、原本を確認する。もうひとつ例を挙げるとするならば、イギリスの過去をたどるいわゆる好古学書/古物研究書を対象に、建築物や記念碑の挿絵が書物にどれほどの付加価値を与えるものであったかという点を分析する。挿絵がテキストの意味や解釈を形作る要素=パラテキストのひとつであることを前提として、エングレイビングが書物に付加した視覚的価値の証明を試みる。以上のような方法で研究を進めた。

4. 研究成果

紋章官フランシス・サンドフォード(Francis Sandford)に関する研究は本邦初と言ってよいもので、日本の英文学研究のスコップを拡大する可能性を孕む、意義のあるものであったと言うことができる。とくに、サンドフォードの書物がいかに作り出され、どのようにして読者の手に渡り、受容されたのかを考察した。書物史における諸要素から作品にアプローチして、近世英国の書物と社会そして書物と人間の関係を追及するという当初の目的を果たすことができた点においても、本研究における重要な研究成果として挙げておきたい。

また、本研究において分析したいと考えてきたことのひとつ、書物が出版される背景を成す事項については、不完全ながらある程度

の進歩があった。これまで研究対象としてきたチズウェルのブックリスト（書籍巻末広告）に注目して、著者と書籍商そして（想定される）購読者の関係を解明するため、チズウェルが、義父にあたるロンドン主要書籍商リチャード・ロイストン（Richard Royston）から扱いを委ねられた200点以上の書物について、確認作業をほぼ完了することができた。分析にはまだ時間がかかるため、これについては継続したい。さらに、新たな発見として、日本でもほぼ同時期に同様の広告が出始めていることが分かった。これに関してはとくに期間後半に研究を進め、口頭で英文の論考を2度発表することができた。

研究期間内に3度の英国現地調査、2度にわたる研究協力者招聘・国際研究集会開催を実現することができた。研究成果としては共著1冊、論文3本、論文口頭発表4回（うち、研究分担者1回）を公表した。2014年度に実施した国際研究集会ではデンマークオーフス大学から近世英文学研究者を招聘した。「書物受容の歴史に関する国際研究集会」と題して行ったこの会議では、歴史研究者の山梨大学名誉教授佐藤正幸氏（2016年度研究分担者）に講演を依頼した。Sterrett氏には“The Power of Prayer: Prayer as Power”というタイトルで、近世英国のマニユスクリプトを含む宗教的書物を中心とする研究発表をいただき、高野は“Connected by a Book: Francis Sandford and A Genealogical History of the Kings of England and Monarchs of Great Britain (1677)”というタイトルで口頭発表を行なった。最終年度に行った研究成果公開事業・国際研究集会を計画した。17世紀イギリスの書物史(Book History)を中心的テーマに据え、英国ヨーク大学からGraham Parry名誉教授を招聘し、日本国内の英文学、その他文学、歴史学等関連分野の研究者、学生、一般の方々に参加してもらい、書物史の諸相に関して活発な研究発表・意見交換の機会を設けることができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

高野美千代 (2016年3月)

"An Unusual Moment in Book History: Text and Image in the Works of Francis Sandford." 英米文化学会編『英米文化』(査読有) 第46号、9-22頁

高野美千代 (2016年3月)

「王政復古期における非国教徒文学と社会～ロバート・ワイルドと出版についての一考察～」山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』(査読有) 第11号、55～63頁

高野美千代 (2014年3月)

「Laurence Sterneの蔵書カタログにおける書籍商の方略」山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』(査読有) 第9号、37～46頁

〔学会発表〕(計4件)

高野美千代 (2016年10月29日)

"Publishers' Adverts and Early Modern Book Publishing in England and Japan" 科研費による国際研究集会「17世紀の書物と読書」於 甲府市藤村記念館(山梨県甲府市)

高野美千代 (2016年9月6日)

"Hazards of Publishing: Maximizing Trust and Minimizing Risk in Publishing in 17th and 18th Century England and Japan" Trust and Risk in Literature Network Meeting 2 (Yamanashi Prefectural University, Kofu, Yamanashi, Japan)

高野美千代 (2014年5月27日)

"Connected by a Book: Francis Sandford and A Genealogical History of the Kings of England and Monarchs of Great Britain (1677)" 科研費による書物受容の歴史に関する国際研究集会、(火) 於 談露館(山梨県甲府市)

佐藤正幸 (2016年10月29日)

「William CamdenのBritanniaに代表される英国歴史書物の特質を、司馬光の『資治通鑑』に代表される東アジア歴史書物との比較を通して解明する」科研費による国際研究集会「17世紀の書物と読書」於 甲府市藤村記念館(山梨県甲府市)

〔図書〕(計1件)

共著 高野美千代 (2015年5月) 『十七世紀英文学を歴史的に読む』十七世紀英文学会編、金星堂

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

高野美千代 (TAKANO MICHIO)
山梨県立大学・国際政策学部・准教授
研究者番号：10289811

(2)研究分担者

佐藤正幸 (SATO MASAYUKI)
山梨県立大学・国際政策学部・特任教授
研究者番号：90126649

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

グレアム・パリー (GRAHAM PARRY)
英国ヨーク大学名誉教授

ジョー・スタレット (JOSEPH STERRETT)
デンマークオーフス大学准教授